

こんにちは お元気ですか！

大阪のお正月は暖かく穏やかなお天気でした。

いつもながら『平穩無事な一年でありますように』と願うばかりです。

本年もよろしくお願い申し上げます。



株式会社 ウインライフ 小野 カ

TEL 072-233-3910

e-mail : tsutomu-ono@win-gr.com

＝ 「103万円の壁」 って ＝

里帰りして来た娘に『お父さん103万円の壁って何のこと？』と聞かれて冷汗をかきました。『確か、103万円の壁は年収の壁の一つだったと思うけどなあ。。。』(汗)

「年収の壁」とは特定の年収を超えると税金や社会保険料が発生して、手取額が逆に減ってしまう年収ラインのことです。税金と社会保険(年金・健康保険)の制度が複雑に関わって本当にわかりにくい仕組みになっています。

① 103万円の壁《税金に関わる壁》

稼いだお金には所得税がかかります。ただ、年収の全額(いわゆる額面)が対象ではなく基礎控除【48万円】と給与所得控除【最低額55万円】の合計103万円を超える部分に対して所得税が発生します。超えた金額が194万円までは税率は5%なので、これだけであればあまり大きな負担ではありません。

実は、本人ではなくて親の税金がドンと増えることの方が大きな痛手なのです。例えば20歳の学生の場合には103万円を超えると、親は扶養控除【63万円】が受けられなくなり所得税の額が増えて世帯全体の収入が大きく減ってしまいます。

② 106万円の壁(社会保険に関わる壁)

厚生年金・健康保険への加入対象となる年収が106万円になります。年収以外にもいくつか条件(※)がありますが、満たした場合には厚生年金保険料などが約15万円かかってしまい手取額が減ってしまいます。おおむね年収125万円になるまでは手取額は回復しません。将来の年金が増えますので損ばかりではないですが、痛いですよネ。

(※) 従業員51人以上の企業、週の労働時間が20時間以上、2ヵ月を超えて勤務予定など。

③ 130万円の壁(社会保険に関わる壁)

社会保険の扶養から外れる年収ラインです。厚生年金・健康保険に加入していない場合には、新たに国民年金・国民健康保険料がかかります。(国民年金保険料は約20万円)

③ 150万円の壁《税金に関わる壁》

150万円を超えたところから配偶者特別控除が徐々に減額しますので、世帯全体の手取額に影響が出ます。201万円を超えると配偶者特別控除はゼロになります。

学生の場合103万円の壁では親の扶養控除が無くなり税金が増えましたが、配偶者の場合は配偶者特別控除があるため150万円までは控除額【38万円】は変わりません。150万円を超えて201万円まで段階的に控除額が減少します。

＝ 年収の壁はどうなるのか？ ＝

令和7年度の税制改正大綱が公表され、年収の壁に関してはこんな感じになるようです。

- (1) 所得税の控除額を103万円から123万円に引上げ
- (2) 特定扶養控除（19～22歳の子）を103万円から150万円に引上げ
- (3) 配偶者特別控除の年収要件を150万円から160万円に引上げ

報道などによると「減税額は年収2～300万円で5千円、年収5～600万円で1万円」だそうです。国全体での減税額は約6750億円とのこと。

減税効果は限定的であり、年収の壁は位置がずれても相変わらずといった印象を私は持ちました。そもそも所得税の控除額103万円は1995年から変わっていません。この間の最低賃金や物価の上昇を考慮すれば、もっと引き上げて欲しいものです。

学生の扶養控除の年収ラインは少し高くなったようですが、社会保険の130万円の壁はそのままなので、注意が必要です。でも、学生は勉強が本分なので『アルバイトしてドンドン稼ぐことが出来ますヨ』というよりも学費や奨学金制度の見直しで負担を下げてあげる方がいいと思いますけど。。

政府は年収の壁があるために「働き控え」が起きていることを問題視しています。私たちも年収の壁を気にすることなく働きたいという点では考えは同じだと思います。税金や社会保険料を一元化するなどもっと分かりやすい制度にして欲しいと思います。

《余談》「1億円の壁」もあるそうです。財務省統計によると1億円を超えると実効税率が低下する傾向にあるようです。これは株式の譲渡・配当にかかる税金が分離課税であり累進性がないことが原因のようです。大金持ちの皆様、もう少し多く負担をお願いします！

《 独 り 言 》

昨年、還暦になりました。「年収の壁」ならぬ「年齢の壁」と言いましょうか。肩は痛くて上がらない、老眼が進んで新聞や本が読みにくい、体温計のピピ音が聞こえないなどなど。歳とともに色々不自由なことが増えて来ました。

それでも、9月には子供たちが還暦祝いをしてくれて、無事に赤いちゃんちゃんこを着せてもらいました。妻や子供たちからは『元気で長生きしてネ』と嬉しい言葉をかけてもらいました。ただ、どうも言外に『もっともっと働いてや！ゆっくりしたらアカンで！』という本音も見え隠れしているのですが。。

まだまだ、現役で頑張ろうと思う今日この頃です！